

農推第2143号
令和7年7月31日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

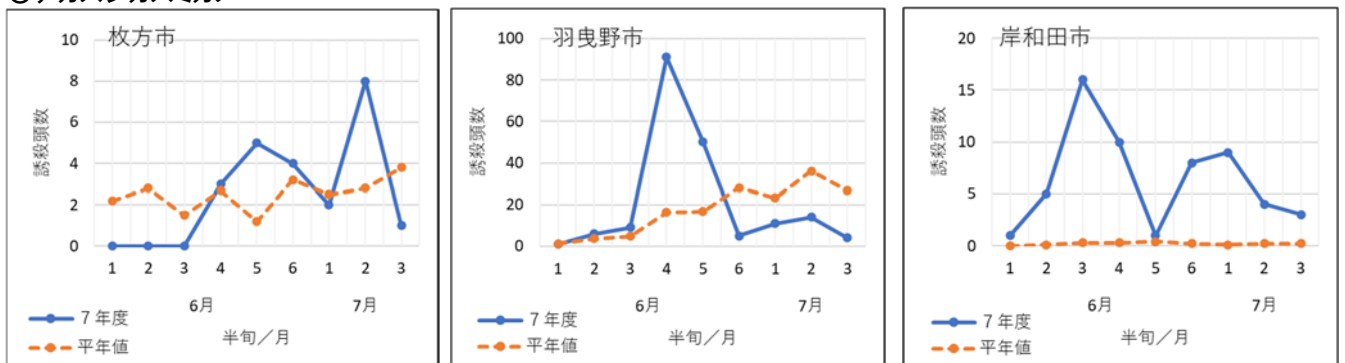
病虫害発生予察情報について

標記について下記のとおり発表したので送付します。

病虫害発生予察注意報第2号

- 1 病虫害名 斑点米カメムシ類
- 2 対象作物 水稻
- 3 発生地域 府内全域
- 4 発生量 多い
- 5 注意報発令の根拠
 - (1) 今年度の7月15日までににおける斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ）の予察灯調査の誘殺頭数が、複数の地点で平年値を大きく上回った。（図、表1）
 - (2) 水田畦畔でのすくい取り調査では アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、ホソハリカメムシ等がみられた。
 - (3) 大阪管区気象台の近畿地方1か月予報（7月24日発表）では、8月の気温は平年より高いと予想されている。

○アカスジカスミカメ



○アカヒゲホソミドリカスミカメ

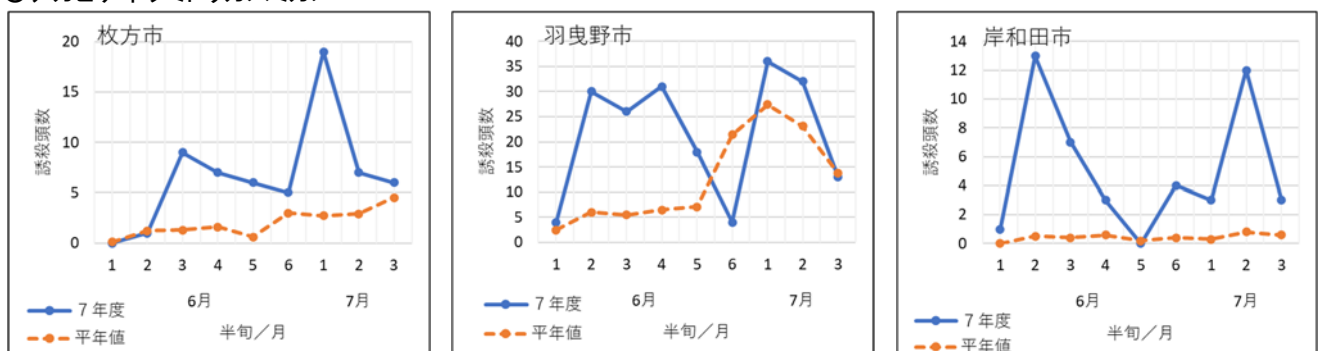


図 予察灯調査での誘殺頭数の推移（枚方市、羽曳野市、岸和田市）

表1 7月第1～3半旬（7/1～7/15）の予察灯調査での合計誘殺頭数と平年値との比較

○アカスジカスミカメ

地点	R7	平年値	平年値との比較
枚方市	11.0	9.1	約1.2倍
羽曳野市	29.0	86.0	平年より少ない
岸和田市	16.0	0.5	32倍

○アカヒゲホソミドリカスミカメ

地点	R7	平年値	平年値との比較
枚方市	32.0	10.1	約3.2倍
羽曳野市	81.0	64.3	約1.3倍
岸和田市	18.0	1.7	約10.6倍

6 生態と被害

- (1) 近年、大阪府ではアカスジカスミカメ（写真1）、アカヒゲホソミドリカスミカメ（写真2）、ホソハリカメムシ（写真3）などの発生が多い。
- (2) 斑点米カメムシ類は、水稻が出穂するまでは畦畔や休耕田等の雑草地のイネ科雑草の種子を吸汁して繁殖している。
- (3) 水稻が出穂すると水田内に移動し、乳熟期の籾を吸汁加害し、斑点米の原因となる。



写真1: アカスジカスミカメ



写真2: アカヒゲホソミドリカスミカメ



写真3: ホソハリカメムシ

7 防除対策

(1) 耕種的防除

- ・斑点米カメムシ類は出穂までは主に畦畔等のイネ科雑草に生息しているため、斑点米カメムシ類の生息密度を下げるためには、出穂前の畦畔の除草が重要である。
- ・畦畔の除草を出穂が迫ってから行くと、斑点米カメムシ類を水田に追い込むこととなり、逆効果となるので、出穂の10日前までに済ませるようにする。

(2) 農薬による防除

- ・薬剤散布（表2）は穂揃期（出穂すべき穂のうち7割から8割が出穂している時期）に行う。発生が多い時は乳熟初期（出穂後10日頃）にも散布する。（水稻は出穂始（走り穂）から2～4日程度で出穂期を迎え、出穂期から2～4日程度で穂揃期になる。）
- ・農薬によっては散布適期が異なることがあるので、ラベルやメーカーホームページなどの資料をよく確認してから使用すること。

表2 カメムシ類の防除薬剤例

薬剤名	有効成分(IRAC)	使用量・希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
スタークル(アルバリン)粒剤	ジノテフラン(4A)	3kg/10a	7日前まで	3回以内
ダントツ粒剤	クロチアニジン(4A)	3～4kg/10a	7日前まで	3回以内
トレボン乳剤	エトフェンプロックス(3A)	2000倍	14日前まで	3回以内

- ・登録は令和7年7月30日現在
- ・最新情報は農薬登録情報提供システム（農林水産省）で確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>
- ・これら以外の剤については、Web版大阪府病虫害防除指針も参照してください。
https://www.pref.osaka.lg.jp/oi20090/nosei/byogaicyu/boujo_shishin.html

8 参考

- (1) カラー技術資料「水稻・斑点米カメムシの防除」（令和6年7月改訂版）

https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/91954/hantenmaikame_osaka.pdf

- (2) 防除情報「イネカメムシの発生を確認しました」（令和7年7月17日発表）

https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/84527/2507_r7bojo03_inekamemushi_soshin.pdf

- ・全国的にイネカメムシによる吸汁被害が多発している。イネカメムシは出穂直後から水田に飛来し、吸汁することで不稔米の原因となる。大阪府では目立った農業被害は確認されていないものの、イネカメムシの発生は確認しているため、生息している地域では出穂直後の飛来に注意し、必要に応じて農薬散布を実施する。